



- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

2026年（令和8年）、気持ちも新たに新年をスタートしました。今年は、十二支でいうと午年、十干では丙午で、太陽のような明るさや情熱、強い意志を象徴する年を言われています。過去の午年を振り返ると、1990年は、バブル経済の絶頂期で、株価・地価が異常な高騰を続け、まさに走り抜けるような勢いの時代でした。2002年は、日韓ワールドカップが開催されました。サッカー日本代表が初のベスト16に進出し、スポーツを通じて人々の心が一つになり国全体に情熱と興奮が広がった年でした。2014年は、消費税が5%から8%へ引き上げられ、経済や社会に大きなインパクトを与えました。今年も、馬が駆け抜けるように、情熱と行動力で突き進み、燃え盛るようなエネルギーで道を切り開いていく、そんな年にしていきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

朝会（冬休み前・冬休み明け・表彰）

12月25日（木）、冬休み前の全校朝会を行いました。一年の振り返りと新年を迎えるにあたっての心構えについて、また、たんぽぽを例に、命をつなぐことや命の大切さ等について話をしました。1月8日（木）、冬休み明けの全校朝会を行いました。アメリカ人作家、ロバートフルガム氏の「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」から、あたり前のことをあたり前にできるよう、自分の生活を見直そうという話をしました。

12月24日（水）、表彰朝会を実施しました。これまで様々な分野で活躍した児童を、全校で称えました。受賞した児童は次のとおりです。

名 称	賞区分	学年組	氏 名
下水道いろいろコンクール	ポスター部門	最優秀賞	6-2 阿久津 彩生
		優秀賞	1-1 須山 栞
		優秀賞	3-1 齋藤 由
		佳作	2-1 鈴木 月望
		佳作	5-1 福島 菜緒
交通安全に関する啓発ポスターコンクール	優秀賞	5-2	岩崎 湊太郎
		佳作	5-1 木村 文香
		佳作	5-2 西口 滯
宇都宮市やさしさを はぐくむ福祉のまちづくり ポスターコンクール	佳作	5-2	青木 佳純
第25回「あかりの日」全国 小学生ポスターコンクール	入選	5-1	向井 寛人

名 称	賞区分	学年組	氏 名
第52回宇都宮市 小学校陸上大会	5年女子 走り高跳び	第1位	5-2 秋元 美苑
	5年女子 走り幅跳び	第1位	5-1 佐々木 琴音
	5年男子 走り幅跳び	第3位	5-2 岩崎 湊太郎
	5年男女混合 400mリレー	第4位	5 年 今村 伊織 稲葉 優 佐々木 琴音 秋元 美苑
	6年男子 走り高跳び	第6位	6-1 郡司 朔也
第48回栃木県学生 音楽コンクール本選会	ピアノ部門	入選	6-2 小牧 昶夫 5-1 佐々木 琴音
第48回栃木県学生 音楽コンクール	弦楽器部門	銀賞	3-2 小牧 亮太 6-2 小牧 昶夫
第19回宇都宮市民 福祉の祭典福祉書道展	銅賞		3-1 飯島 優月
	佳作		3-2 佐藤 花菜羽
			4-2 福田 有加里
			5-1 佐々木 琴音
			6-1 佐藤 美日菜

第58回下野教育書道展	銀賞		3-1 関根 心晴
	銅賞		3-2 佐藤 花菜羽
			6-1 佐藤 美日菜
心の輪を広げる体験作文	最優秀賞		2-1 葛馬 未利
第44回栃木県年齢別 選手権水泳競技大会	200m個人メドレー 50m自由形 50mバタフライ	2位 3位 1位	4-1 福田 華子
第3回栃木県選手権 水泳競技大会	200m個人メドレー 50m自由形 50mバタフライ	2位 2位 1位	
第37回栃木県ジュニア 冬季室内選手権	50mバタフライ	1位	
第10回家族の きずなエッセイ	優秀賞		6-1 佐藤 凜桜
	入選		6-2 阿久津 彩生
			6-1 佐藤 美日菜

5年冒険活動教室（1日目）

12月11日（木）、5年生は、冒険活動教室のため、宇都宮冒険センターに向
け出発しました。午前中は、入所式やオリエンテーリング、午後は登山を実施
しました。天気にも恵まれ、全員が無事に
コースを回ることができました。夕食後、
真っ暗闇の中で、夜空一面に煌めくきれ
いな星空を観察し、感動に包まれるとい
う貴重な体験ができました。



冒険活動教室（2日目）

12月12日（金），児童は，全身体調もよく，午前中は，イニシアティブゲームに取り組みました。グループ内の連携や協力を必要とする活動です。昼食後は，夕食に向けた野外炊飯活動です。火起こしや飯盒炊飯など，貴重な経験をすることができました。



冒険活動教室（3日目）

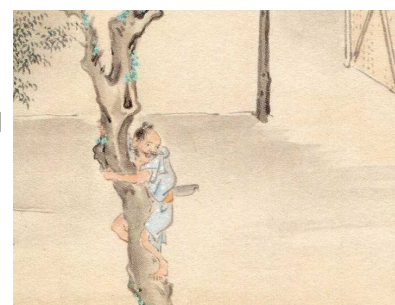


12月13日（土），午前中は杉板焼に取り組みました。野外炊飯の経験を生かし，協力しながら上手に火を起こすことができました。保護者の皆様には，事前の準備や最終日のお迎えなどこれまで大変お世話になりました。

兼好法師『徒然草』

～高名の木登り～

昔，木登り名人と呼ばれる人がいました。その名人が，自分の弟子を高い木に登らせて，木の枝を切らせていた時のことです。弟子が木に登って枝を切り下りてくるまでの間に，名人は1回だけ「けがをしないように気をつけなさい。」と弟子に声をかけました。名人は，弟子がどこにいる時に声をかけたのでしょうか。①木に登っていくとき。②高いところで枝を切っているとき。③枝を切り終わって低い場所まで下りてきたとき。名人が弟子に「気をつけなさい。」と声をかけたのは，①の弟子が木に登っていく時ではありません。②の高いところで枝を切っている時でもありません。安全な低い場所まで下りてきた③の時に声をかけたのです。弟子は不思議に思い，「このくらいの高さなら飛び降りることだってできます。なぜ，低い場所にきた時に声をかけたのですか。」と名人に聞きました。名人は，「高いところでは自分で気をつけるが，低い場所に降りてきた時は気が緩む。もう大丈夫だと思った時に，油断して失敗してしまうものだ。」と答えました。



これは，鎌倉時代末期に朝廷に仕えていた吉田兼好（よしだ けんこう）という人物が書いた徒然草（つれづれぐさ）という随筆の一節です。徒然は，特にやるべきことがなく，手持ち無沙汰な様子を表し，草は植物ではなく，草子（そうし）つまり冊子のことです。徒然草は，兼好が日常生活の中で見聞した出来事について，気の向くままに書いた作品です。徒然草は，方丈記，枕草子と並んで，日本三大随筆と呼ばれています。「高名の木登り」は，木登りの名人が，弟子を木に登らせて梢を切らせる際，高い場所では何も言わず，降りてくる際に「あやまちすな。心して降りよ。」と注意する様子を描いています。この話は，油断することの危険性や，注意すべきタイミングを教えてくれる教訓として知られています。



人は，ゴールが見えた時，少しホッとします。そして気が緩みます。それまで緊張して細心の注意を払って頑張ってきたことが，最後の最後で気が緩み大きな失敗をしてしまうことは，よくあることです。それまでの努力が水の泡にならないように，最後まで気を抜かず集中して，持てる力を十分に発揮していきたいものです。



本校のHPは日々更新しています。
最新情報はHPでご確認ください。



にっこりえがお
しっかりまなぶ
きたえるからだ